

令和元年度 第2回自己評価の解説

設問項目	肯定的回答 (%)			分析内容
	生徒	保護者	職員	
【設問1】 楽しい場	88	91	100	9割近くの生徒が学校生活は楽しいと回答しており、昨年より2%向上している。生徒の割合については、保護者・職員よりも下回っている。引き続き生徒指導の三つの機能（生徒に自己決定の場を与える・生徒に自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する）をあらゆる教育活動の場に生かしながら、日々の活動での観察や教育相談等を通して、より一層の生徒理解に努めていく。
【設問2】 学校施設	94	97	100	生徒・保護者・職員とも9割以上が肯定的な認識を持っている。各施設は新しく便利で使いやすいという意見が多い。今後も定期的な点検等を通して安全・安心な環境づくりに努めていく。また、昨年度からエアコンの使用が開始され、夏季の熱中症予防に大いに役立っている。
【設問3】 情報発信	93	88	100	生徒は肯定的な回答が昨年より向上し、9割を超えた。学校だより「刮目」を12月までに13号発行し、生徒の活躍や学校の様子がわかりやすいという評価をいただいている。また、学年・学級だよりも定期的に発行し、情報提供をこまめに行っている。HPや配信メールの効果的な活用とともに、保護者や生徒に対してより充実した情報発信を引き続き心がけていく。
【設問4】 地域交流	69	73	84	保護者・職員は昨年度よりも向上している。数年前から市のクリーン作戦に部活動単位で参加したり、職場体験学習や職業講演会、年末年始特別警戒取締り並びに冬の交通安全出動式に協力するなどの地域と連携した取組を行っている。今後も「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、地域の方々との交流が深められるように工夫していく。
【設問5】 いじめ防止	84	74	96	生徒の回答は昨年より11%の向上が見られ、日常的な教育相談やいじめアンケートを実施し、いじめ案件について早期発見・早期対応を心掛けて取り組んできた結果と思われる。職員の意識も100%と高く、いじめのない学校づくりに努めている。また、今年度も生徒会が主体となった全校「いじめゼロ集会」を実施し、いじめは絶対にあってはならないという意識を持たせるようにしている。しかし、保護者からは職員が把握できていない面もあるとの御指摘をいただくこともある。今後も、生徒が安心して毎日登校できる環境をつくるため、いじめの早期発見・早期対応に努めていく。
【設問6】 わかる授業	92	75	100	生徒・職員はかなり向上しているが、保護者は-4%という結果となっている。生徒に「わかる授業」を展開し、学力向上をさらに進めるために授業改善をしているところである。全国学力・学習状況調査の結果分析を通して、生徒の実態に応じた効果的な指導法について検討するなど、今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、引き続き職員研修・授業実践を推進していく。
【設問7】 誠実な 相談活動	88	81	100	肯定的な回答が8割を超えているが、一部生徒・保護者からは職員への強い改善要望がある。生徒に対しては、職員のしっかりとした人権意識と発達段階に即した確かな生徒理解が不可欠である。また、保護者に対しては、職員の接遇マナーのあり方も見直す必要がある。定期的な相談活動だけでなく、毎日の生徒や保護者との関わりを大切にして、信頼関係を築いていく。

設問項目	肯定的回答 (%)			分析内容
	生徒	保護者	職員	
【設問8】 生徒理解 公平な評価	80	74	100	生徒の肯定的な回答が昨年より3%向上しているが保護者の回答は3%減っている。より一層生徒・保護者との対話を丁寧に行い、生徒理解・信頼関係づくりに努めていく。また、評価については、客観性が高く生徒・保護者が理解しやすい評価のあり方、生徒の学習意欲を高めるための評価方法の工夫が必要である。
【設問9】 教育環境	91	93	92	生徒・保護者・職員とも9割以上が肯定的な回答である。とくに校内の掲示物については、生徒の作品や生徒の興味・関心を高めるタイムリーな内容の作品を丁寧に作成・掲示している。今後も生徒の学校生活の充実に役立つ環境整備に努めていく。
【設問10】 授業への取組 ・時間を守る	90	92	92	生徒の肯定的な回答は9割を超え、昨年度を上回っている。生徒の時間に対する意識は高くなっている。学習委員会による2分前着席の呼びかけ活動の効果も大きいと思われる。生徒の授業への取組は概ね良好であり、今後も望ましい学習習慣の確立を図りながら、体験的・問題解決的な学習を積極的に展開し、生徒の学習意欲と学力向上に努めていく。
【設問11】 交通ルールを 守る	96	78	76	生徒・保護者は昨年度とほぼ同じだが、職員は2%下回っている。1学期に自転車による事故があり、2学期は時折、地域・保護者の方々から生徒の自転車の乗り方についての御意見・御指導をいただいている。今後も保護者等の協力を得て、さらに交通安全に関する指導を強化していく。
【設問12】 元気な あいさつ	94	77	92	保護者・生徒と職員との認識の差はあるが、肯定的な回答が増えてきており、解消されつつある。生活委員会によるあいさつ運動、部活動でのあいさつ・職場体験や校外の方をお願いしての行事に向けての礼法の指導などが徐々に成果となってあらわれている。社会生活を営んでいく上で重要であるあいさつが、さらに定着して習慣化するように今後も継続的に指導していく。
【設問13】 身だしなみ	95	95	96	昨年度同様、生徒・保護者・職員とも9割を上回る結果となった。生徒の規範意識の向上が、服装や身だしなみにあらわれている。今後も清潔感のある中学生らしい身だしなみで生活できるよう指導を継続していく。
【設問14】 清掃活動	91	93	72	昨年度同様、生徒・保護者と職員との認識の差は多少あるが、多くの生徒が積極的に清掃活動を行っている。きれいな学校で学習できるように職員による率先垂範を心がけながら、生徒が公共心や勤労の精神をもって意欲的に清掃活動に取り組むように指導していく。
【設問15】 保護者の参加	68	56	96	昨年度より保護者で2%、教員で13%向上している。5月の運動会、10月の合唱コンクールでは多くの保護者に足を運んでいただいた。また、PTAバザーでは多くの保護者の方に授業参観からバザー・模擬店等の御協力をいただいた。今後も開かれた学校づくりを目指した学校運営に心がけていく。